

5 環境負荷の少ない都市環境の創造

▶ 現況と課題

◆ 市内には、4箇所のJR駅をはじめ、路線バス、循環バスなどの公共交通機関があります。

しかし、アンケートでは、自動車利用による大気汚染や騒音への不満が多くなっており、交通の円滑化や環境負荷軽減の観点から、鉄道やバスなどの公共交通の利用を促進するための取り組みが求められています。これまで循環バスの運行などを図ってきましたが、公共交通の一層の充実が必要となっています。

また、市内の主要道路においては、これまでの利便性に重点をおいた整備から環境や歩行者への配慮が求められています。

◆ 近年、長引く経済不況から活性化への要望が高まっていますが、まちの発展に際しても環境との調和が求められる傾向にあります。

アンケートからも、こうした傾向がうかがえ、今後の社会資本の整備については環境への配慮が必要となっています。

また、浦戸諸島においては、基盤整備の遅れがみられ、快適な生活環境の形成が必要となっていますが、優れた自然環境が多く存在するという特性上、特に環境への配慮が求められています。

◆ 市内では、おおむね時間降雨強度30mm程度の降雨では、大規模な水害の発生は防止できるようになりましたが、引き続き雨水対策を総合的に推進する必要があります。

市内の丘陵地には崖地が多く存在し、地震などにより崩壊が懸念されるため、危険地区の解消が求められています。また、浦戸諸島の海岸線は、防護海岸線の未整備や老朽化している箇所があり、高潮や津波などの被害が懸念されるため、海岸保安施設の整備・改善が必要となっています。

今後は、これらの防災対策においても、景観との調和など、環境への配慮が求められています。



市内循環バス



市内に点在する崖地



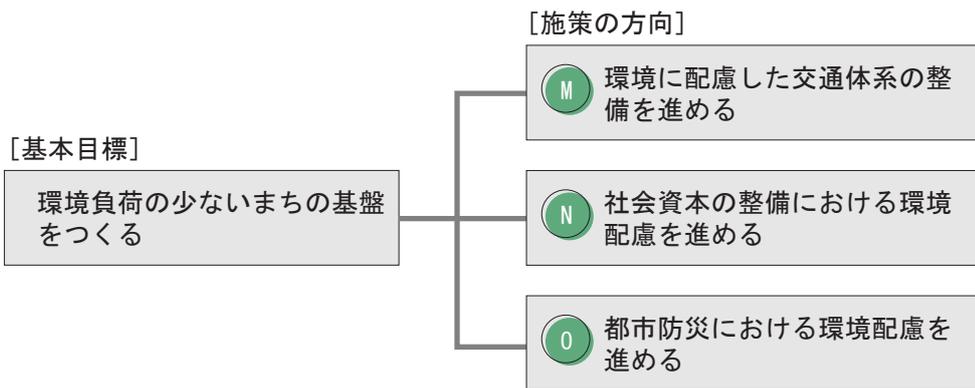
寒風沢地区の漁業集落排水処理施設

基本目標 (5) 環境負荷の少ないまちの基盤をつくる

管理指標

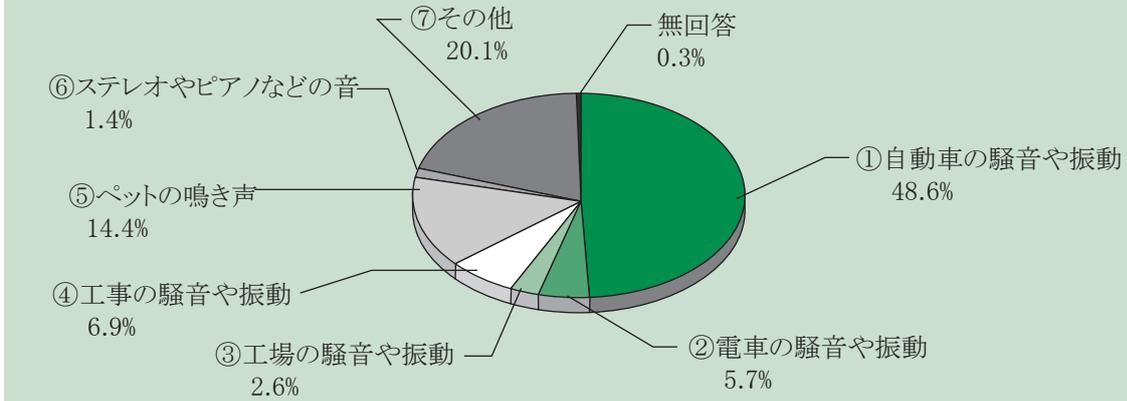
- 市内循環バスの利用者数を30万人以上に増加することを目標とします。
- 下水道普及率(計画区域内)を100%にします。
- 市民アンケートでの「公共交通や歩いて行ける場所に行くときは、自動車を使わないようにしている」の回答率を70%以上に引き上げることを目標とします。

施策の方向



市民の皆さんが感じている騒音・振動の原因は…

【騒音・振動の原因】



出典：「平成12年度塩竈市環境アンケート」

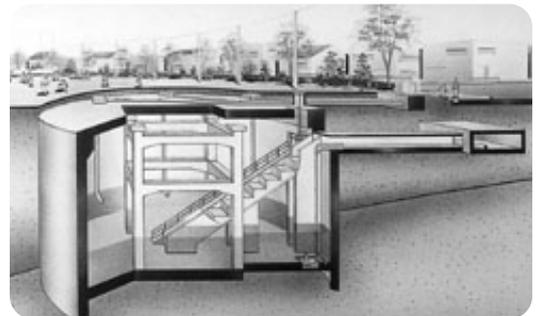
公共交通機関の整備・利用促進や、渋滞の解消策の充実などにより、安全かつ連続性・周遊性のある交通環境を、環境や景観との調和に留意しながら進めます。それにより、自動車利用による排出ガスや騒音・振動などの環境負荷を低減し、歩行者にも道路沿いに住む人にも環境にも負荷の少ない交通体系の確立を目指します。

具体的施策

- 環境負荷の少ない道路の体系的な整備を進めます。
 - ◇ 都市計画街路の整備
 - ◇ 地方道改良、交通安全施設等の市道整備
 - ◇ 狭あい道路の整備や私道等整備の支援
- 公共交通網の利便性・連続性を高めて利用向上を図ります。
 - ◇ 市内循環バス路線の整備・充実
 - ◇ バス路線のダイヤの充実
 - ◇ サイクル・アンド・ライドシステムの整備
 - ◇ (仮称)塩竈北駅設置の検討
- バス・アンド・ライドやノーマイカーデーの普及など、公共交通の利用意識を高めていきます。
 - ◇ バス・アンド・ライドやノーマイカーデーの普及・啓発
 - ◇ 環境配慮行動指針の普及・啓発【再掲】
- バリアフリーの推進など、誰もが安心して利用できる公共交通・歩行空間の整備を進めま



東塩釜駅前駐輪場



新浜町公園調整池



低騒音舗装の道路

N

社会資本の整備における環境配慮を進める

誰もが安心して快適に暮らすことができるまちづくりのために、住宅や公共施設の配置、道路整備等の社会資本の整備において、環境負荷の少ない資材の利用や計画的な市街地整備など、環境への配慮を進めます。

また、浦戸諸島の環境衛生、福祉、防災などの基盤整備を、恵まれた自然環境との共生を重視しつつ進めます。

具体的施策

- 社会資本整備において環境負荷の少ない資材・工法を導入していきます。
 - ◇ 環境率先実行計画の推進【再掲】
 - ◇ 低騒音舗装[※]などによる路面改良の推進
- 土地利用における環境配慮を進めます。
 - ◇ 土地利用ガイドラインの検討
- 環境負荷の少ないまちをつくるため、下水道整備を進めます。
 - ◇ 公共下水道(汚水事業)の整備、接続促進【再掲】
- 豊かな自然を享受し、それらと共存できる浦戸地区の生活基盤づくりを進めます。
 - ◇ 漁業集落環境、海岸保全施設及び漁港の整備【再掲】
 - ◇ 浦戸地区生活排水処理対策の推進【再掲】

0

都市防災における環境配慮を進める

災害に強い安全なまちづくりを、環境や景観を配慮しつつ推進します。

そのために、津波・高潮対策や急傾斜地対策を進める上で、緑化など環境への配慮や周辺景観との調和を図ります。

また、水害対策としての雨水流出抑制施設整備に加え、新たな雨水再利用の技術導入を図り、水の循環を活かした雨水の有効利用を進めます。

具体的施策

- 海岸保全施設や急傾斜地崩壊対策などに環境に配慮した整備方法を取り入れていきます。
 - ◇ 環境率先実行計画の推進【再掲】
- 雨水流出抑制施設[※]の整備を進めます。
 - ◇ 公共下水道(雨水事業)の整備
- 天水桶[※]の利用などを推進し、雨水の有効利用を図ります。

※低騒音舗装／タイヤと路面間の空気による騒音低減効果を活用した舗装のこと。自動車が走行するとき、空気を路面の中に逃がすことで、騒音を3デシベル程度低減する効果があるといわれている。

※雨水流出抑制施設／雨水を一時的に貯めたり、地中に浸みこませることで、降った雨がすぐには流れ出にくくする施設のこと。

※天水桶／植木への水やりや洗車などに利用するために雨水を貯えておく桶のこと。